

『享和三年 小西郷村庄屋 市左衛門日記』について

令和 7 年 11 月 11 日

岐阜県歴史資料館 蓑島一美

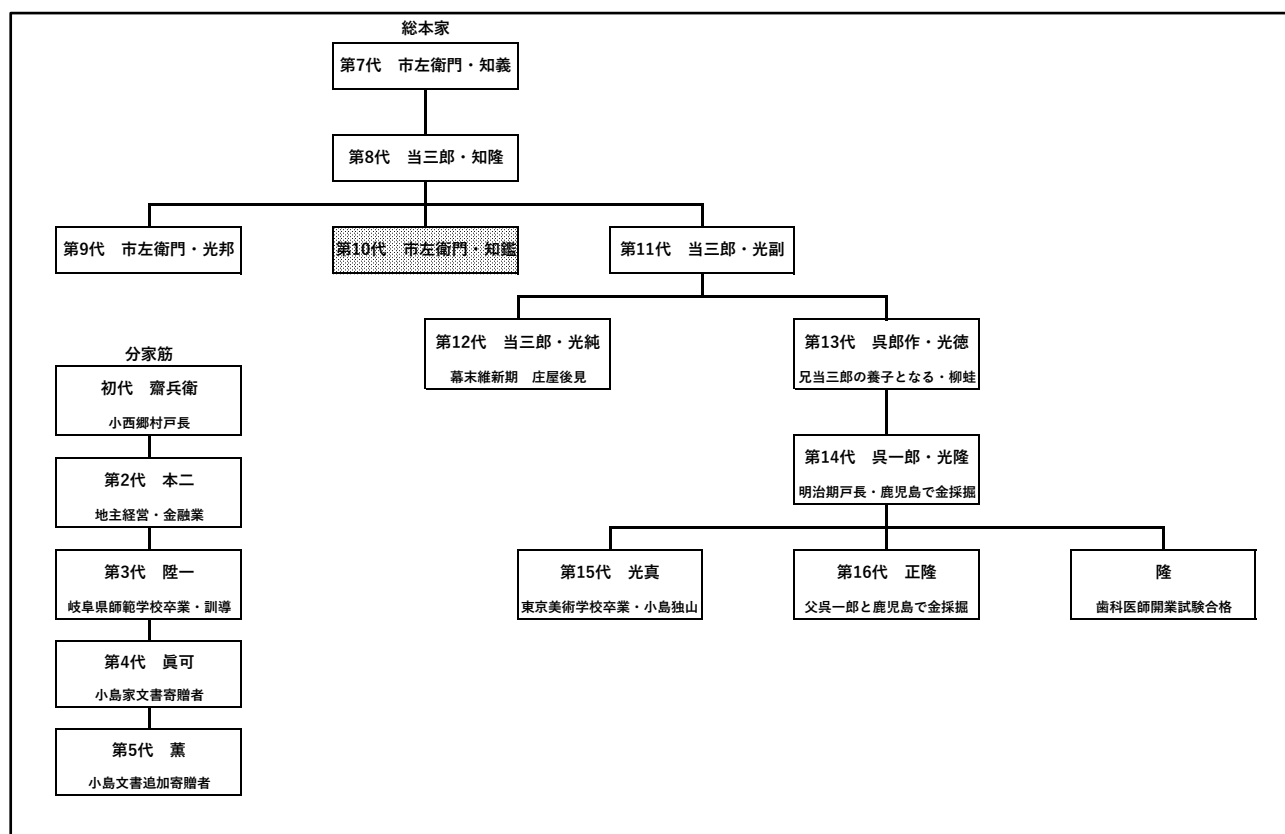
1 小島家について

小島^{まさよし}真可家文書の庄屋日記をテキストとする古文書講座は、本年度で 5 回目となりました。シリーズで解説を進めてきましたが、今回初めて受講される方もいらっしゃると思いますので、改めて小島家のことや日記がまとめられた享和 3 年の出来事について、お話したいと思います。

はじめに小島家について概略を申し上げます。小島家は、方県郡小西郷村（今の岐阜市小西郷）において代々庄屋役を務め、当主は「当三郎」か「市左衛門」を名乗りました。

当館は、令和 5 年度及び同 6 年度に「小島真可家文書目録」を二分冊で刊行しましたが、同家の文書は近世中期から近代（昭和期）にかけて総数 8 千点を超える大文書群であることが分かりました。今後の地域史研究に生かされるものと期待しております。

小島家の略系図



さて、テキストの日記を書いた人物は、小島家の第 10 代当主「市左衛門」です。同家の「回忌覚」によれば、市左衛門は文化 7 年（1810）行年 43 歳で亡くなっています。逆算すると明和 5 年（1768）に生まれたことになります。小島家の家督を、兄の市左衛門・光邦から引き継ぎましたが、自身に嗣子がなかったため、やがて弟の当三郎・光副へ譲ることになります。

小島家の当主は代々、村の出来事や村に回ってきた役所の触などを「公用日記」として書き留めました。これは村の記録であり、次代の者が参考にするによいことを書き残したものであると言えます。

享和3年(1803)は、小西郷村の領主が、幕府(大垣藩預所支配)から陸奥国の磐城平藩主・安藤家へ替わった年でした。いわゆる私領替えがあったのですが、市左衛門は、48年ぶりの領主交替について、記録をとっておく必要があると考え、日記を残したのだと思います。

安藤家は元々美濃国の加納藩主でしたが、宝暦5年(1755)、藩主^{のぶただ}信尹の不行跡が明るみとなり、信尹は幕府から籠居・謹慎を命じられました。さらに家督を次子信成に継がせ、石高を6万5千石から5万石へ減封、翌6年5月21日には加納から陸奥国磐城平への転封(国替え)を命じられました。この時美濃国内にあった領地は、全て召し上げとなり、幕府領に組み込まれました。小西郷村(村高318石余)もそのうちの一つであったわけです。

しかし享和3年の春、大垣藩預役所から「私領渡并分郷等ニ相成候而差支之有無、往古御料私領之訳」を書くように指示がありました。この動きから、領主の交替があるのではないかと風聞が立ち、村人たちは騒ぎ立てます。幕府領と私領(大名領)では、年貢の取り立てに違いがあったからです。安藤家領であった頃、本途物成(田畑や林野に課される本年貢)以外に、雑税や御用金の徴収で苦しんだ経験があり、その辛い過去が蘇ったのかもしれません。この時、誰が領主となるのかまだ分からなかったのですが、12月5日に初めて「安藤対馬守」と言い渡されます。安藤家にとっては旧領が復活する喜ばしいことでしたが、私領替えとなる村々には、深刻な問題として映ったものと推察されます。

市左衛門は、私領となる村々の名前を聞いて、日記に書き留めました。その総石高は2万3047石余となります。しかし、実際に安藤家に加増された領地は美濃国内の1万8千石余で、美濃郡代支配地(幕府領)であった方県郡寺田村、小島村、一日市場村などは、この時対象外となりました(別表参照)。

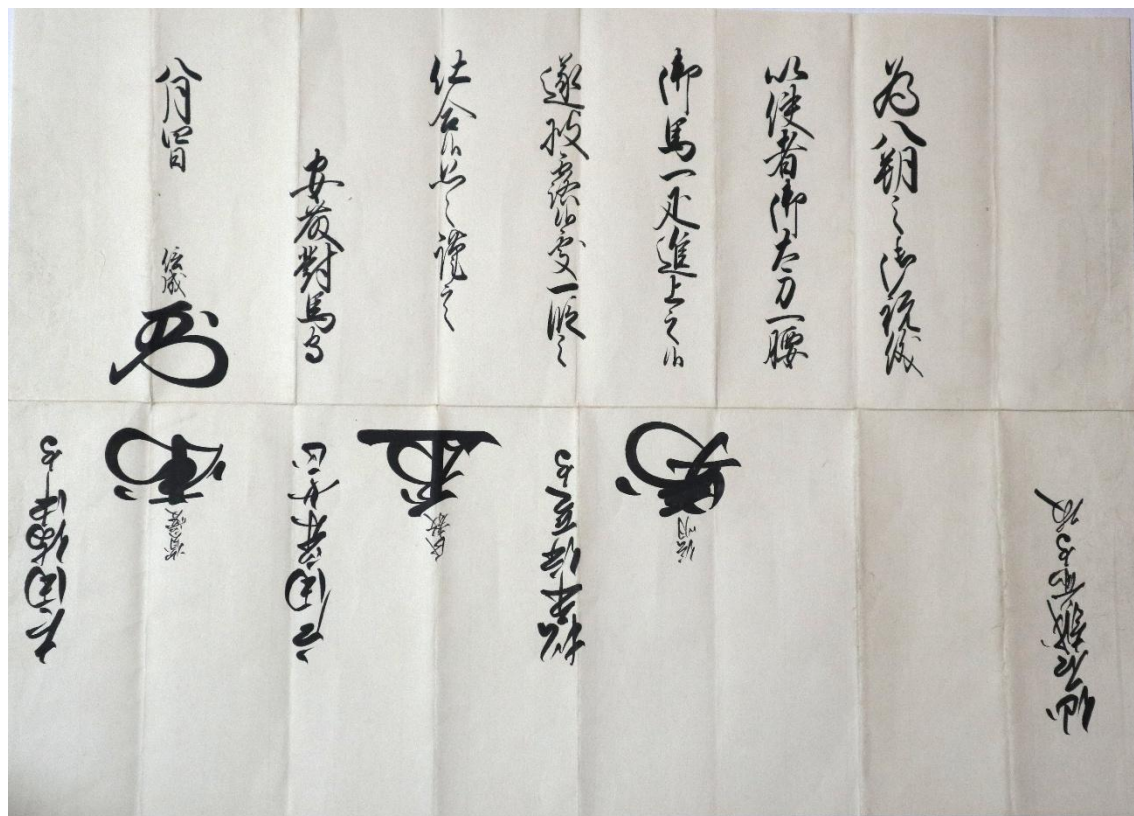
2 安藤信成について

移封により磐城平藩主となった安藤信成は、藩政に尽力しました。中でも藩士子弟の教育に熱心で、藩校「施政堂」を創設し、漢学・四書五経・国語等のほか、兵学や洋学等を学ばせました。一方、幕政にあっては天明元年(1781)に寺社奉行、天明4年(1784)に若年寄、寛政5年(1793)に老中というように出世し、要職を歴任しました。特に老中職は、寛政の改革を推進した松平定信の失脚後に拝命する、難しい局面で就任しましたが、結果的に文化7年(1810)までの17年間、大過なく務め上げることになります。

このように、幕閣の一人として、幕政に貢献したことが認められて、信成の加増(旧領の復活)が持ち上がったのではないかと考えます。享和3年12月、正式に私領替えの沙汰が、村々へ下されました。

さて次の史料は、但馬国出石藩主の仙石越前守へ送られた「老中連署奉書」と呼ばれるものです。折紙の様式になっています。この時の仙石越前守は、久道(1774~1834)であると思われます。出石藩(今の兵庫県豊岡市出石町)の第5代藩主です。八朔は、旧暦の8月1日にあたり、徳川家康がこの日に江戸城へ入ったことから、武士の祝日の一つになっていました。大名や旗本たちは、白帷子(しろかたびら)を着て登城し、将軍家へ祝辞を申し述べる

行事がありました。久道は、将軍家（徳川家斉）へ太刀一腰・馬一疋を献上したのですが、この史料は、老中の安藤信成、太田資愛（遠江国掛川藩主）、戸田氏教（美濃国大垣藩主）、松平信明（三河国吉田藩主）が、久道の献上品を将軍家へ披露し、上様（将軍）が祝着であったことを伝えています。



為八朔之御祝儀	以使者御太刀一腰	御馬一疋進上之候、	遂披露候処、一段之	仕合候、恐々謹言	安藤対馬守	八月四日 信成（花押）	……………（折紙）……………	太田備中守	資愛（花押）	戸田采女正	氏教（花押）	松平伊豆守	信明（花押）	仙石越前守殿	【読み下し】	八朔の御祝儀として、使者を以て御太刀一腰、御馬一疋之を進上候、披露を遂げ候処、一段の仕合に候、恐々謹言
---------	----------	-----------	-----------	----------	-------	-------------	----------------	-------	--------	-------	--------	-------	--------	--------	--------	---

寛政期に老中であった人物の任期

氏名	読み	官名	補職年月日	免職年月日
松平定信	さだのぶ	越中守	天明7年6月19日 (1787年)	寛政5年7月23日 (1793年)
松平信明	のぶあき	伊豆守	天明8年4月4日 (1788年)	享和3年12月22日 (1803年)
松平乗完	のりさだ	和泉守	寛政元年4月11日 (1789年)	寛政5年8月15日 (1793年)
本多忠籌	ただかず	弾正大弼	寛政2年10月16日 (1790年)	寛政10年10月26日 (1798年)
戸田氏教	うじのり	采女正	寛政2年10月16日 (1790年)	文化3年4月26日 (1806年)
太田資愛	すけよし	備中守	寛政5年3月1日 (1793年)	享和元年6月7日 (1801年)
安藤信成	のぶなり	対馬守	寛政5年8月24日 (1793年)	文化7年5月24日 (1810年)

(『徳川幕府事典』4版 東京堂出版 2006年 参照)

氏名	1787	1788	1789	1790	1791	1792	1793	1794	1795	1796	1797	1798	1799	1800	1801	1802	1803	1804	1805	1806	1807	1808	1809	1810	1811
			寛政												享和			文化							
松平定信																									
松平信明																									
松平乗完																									
本多忠籌																									
戸田氏教																									
太田資愛																									
安藤信成																									

4人が老中として揃うのは、寛政5年8月24日から享和元年6月7日までの期間となります。8月4日に文書を作成できる年となると、寛政6年(1794)から寛政12年(1800)までの6年に絞られます。果たして、この老中連署奉書は、いつ作成されたのでしょうか。この点は明らかではありませんが、小西郷村が、安藤家私領になる前の出来事であったことは確かなようです。

享和３年に私領渡しになると噂された村と実際に安藤家領となった村

支配	享和３年に私領渡しになると噂された村		安藤家領となった村と石高（石高は明治２年時点）					
			村名	石	斗	升	合	勺
大垣藩 預所三十一か村	方県郡	下西郷村	下西郷村	622	4	7		
		小西郷村	小西郷村	318	4	1	6	
		御望村	御望村	282		4	8	
		中村	中村	344			4	
		西改田村	西改田村	752	9		3	
		東改田村	東改田村	604		9	5	
		上尻毛村	上尻毛村	180	5	9	1	
		下尻毛村	享和３年に安藤家領となるが、文久３年再び幕府領。					
		上曽我屋村	上曽我屋村	791	9	1	1	8
		又丸村	又丸村	421	8		1	
		川部村	川部村	354	3	9	2	
			下曽我屋村	552	9	8	8	2
	石高合計		石高合計	5220	51	48	39	10
	5,040石３斗９升５合８勺		5,225石６斗２升					
	厚見郡	野一色村	野一色村	351	9	8	7	
		岩戸村	享和３年に安藤家領となるが、文久３年再び幕府領。					
		岩地村	岩地村	215	3	8	5	
		前一色村	前一色村	267		2	6	
		水海道村	水海道村	386	9	4	9	
		日野新田	日野新田	53	2	2	4	
		高田村	高田村	528	6	5	5	
		蔵前村	蔵前村	714	8	1	5	
		切通村	切通村	721	7	3	8	
		北一色村	北一色村	736	5	8	3	
		日野村	日野村	891	5	3	4	
		領下村	領下村	711	1	4	3	
		細畑村	細畑村	760	9	2	1	
	石高合計		石高合計	6339	9	6	0	
	6,729石３斗９升		6,339石９斗６升					
	本巣郡	宗慶村	宗慶村	545	6	6	6	
		軽海村	軽海村	916	5	6	7	
		十四条村	十四条村	687	9	2	8	
		高屋村	高屋村	1141	9	6	7	
		小柿村	小柿村	927	2	1	6	
		柱本村	柱本村	452	2	2	7	
		馬場村	江戸期を通じて幕府領					
	石高合計		石高合計	4671	5	7	1	
	5,304石１斗		4,671石５斗７升１合					

支配	享和３年に私領渡しになると噂された村		安藤家領となった村と石高（石高は明治２年時点）					
			村名		石	斗	升	合
笠松支配	方県郡	寺田村	宝暦13年から美濃郡代支配（幕府領）					
	方県郡	下曽我屋村	享和３年から安藤家領（方県郡に算入）					
	方県郡	小島村	宝暦13年から美濃郡代支配（幕府領）					
	方県郡	一日市場村	宝暦13年から美濃郡代支配（幕府領）					
	方県郡	鵜飼村	方県郡	下鵜飼村	享和３年に安藤家領となるが、文久３年再び幕府領			
	方県郡	黒野村	享和３年に安藤家領となるが、文久３年再び幕府領。					
	方県郡	木田村	享和３年に安藤家領となるが、文久３年再び幕府領。					
	羽栗郡	両印食村	羽栗郡	下印食村	1336	8	2	3
			2か村	上印食村	444	6	7	1
	石高合計		石高合計		1781	4	9	4
6,073石 9 斗 8 升 2 合 8 勺		1,781石 4 斗 9 升 4 合						

※ 石高は明治期岐阜県庁事務文書3・32・7の「美濃国元平藩領知郷村高帳」（明治2年2月）をもとにした。

※ 領主の異動は、角川書店発行の『角川 日本地名大辞典 21 岐阜県』を参考にした。